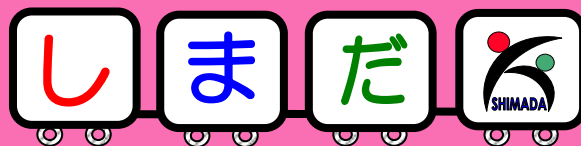


NEW



ネットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター  
院長 木実谷 哲史



# 新年のご挨拶



院長 木実谷 哲史

新年明けましておめでとうございます。島田療育センターは57年目を迎えました。これもひとえに地域の皆様方のご支援の賜物だと思っております。島田療育センターは入所事業のほかに、地域に開かれたセンターとして、外来部門、通所部門、在宅支援、学校や幼稚園、保育園の支援、学童クラブの支援などを積極的に行っております。また、年1回秋に開催している「わいわい祭り」も、地域子どもたちへ開放して好評を得ております。今、社会福祉法人に対して世間から厳しい目が注がれ、大幅な見直しが始まりました。特に、組織のガバナンスの強化、事業の公開性、事業の公益性などが厳しく問われており、島田療育センターでも抜本的な見直しに着手しております。昭和36年に日本で最初の重症心身障害児施設として50床の入所施設を開設しました。その後は世の中のニーズに応じて様々な事業を展開してきました。現在の入所部門は233床の長期入所と9床の短期入所、1床の医療緊急と計243床で運営しております。これからも地域の皆様に役立つセンターとして、ますます充実させていきたいと考えております。今後ともよろしく願い申し上げます。

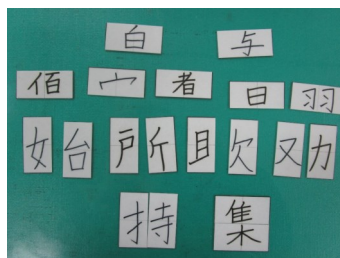


## 目の体操教室 -ビジョントレーニング-

最近なにかと目にする機会が多い“ビジョントレーニング”。当センターセブクローバー『目の体操教室』でも、年長(6歳)～小学6年生のお子さんを対象に、物の見え方・捉え方に関する評価と個別トレーニングを行っています。平成25年6月の開設から、これまで100名を超えるお申し込みがありました。学年別に見てみると、小学1年生、2年生、3年生の順にお申し込みが多くありました。申し込まれた理由として、書きに関すること(書き写しが苦手、字のバランスが悪い、字が覚えられないなど)が最も多く、次いで、見えに関すること(目を効率的に動かせない、探し物が苦手など)、読みに関すること(音読が苦手、読み飛ばしが多いなど)でお困りの方が多くいらっしゃいました。その他にも、球技の苦手さや手先が不器用といった運動面の苦手さや、図形の

理解や筆算の桁を間違えるなど算数の苦手さについての訴えもありました。

『目の体操教室』では、目の動かし方・物の形の捉え方・読み書きに関する評価を行っています。そして、お子さんの特性に合わせて、“楽しく取り組める!”をモットーにトレーニングを行い、ご家庭で練習していただく方法もご紹介し、お子さんの自信につながるようサポートしていきます。トレーニングに来られている方からは、文章を読むのが楽になった、読み飛ばしが減った、野球の打率が上がった、といったお声をいただいています。なお『目の体操教室』の詳細に



教材例

つきましては、当センターのホームページに詳しく紹介しておりますので、是非ご覧ください。

(心理判定員 稲石ひろみ)

## 親子であそぼう♪ にこにこグループ

にこにこグループは、発達に心配のある年少入園前までの2～3歳までのお子さんと、その保護者を対象とした親子参加型のグループです。お子さんと保護者の方々と作業療法士や言語聴覚士、心理判定員が携わっています。

グループの活動は、出席カードをポストに入れてもらうところから始まり、お名前呼びや準備体操、紙人形劇などの後に体を動かす活動、手先を使った活動などのテーマに沿ったあそびを実施しています。環境の変化に敏感なお子さんは活動に参加できるようになるまでに少し時間がかかることがあります、ご様子を見ながら決して無理を強

ず、できるところから参加してもらっています。最初の数回は参加が難しかったお子さんも後半にはグループの流れに沿



活動の様子

て参加できるようになっています。例えば、活動が始まるときに「はじめます」、終わるときに「おしまい」と、ジェスチャーを交えて行うご挨拶は、大人に注目してもらう一つの機会として、また活動の始まりと終わりを意識してもらうために行っています。日々の生活の中でも実践しやすい活動を取り入れるようにしています。

毎回の活動後には、日ごろのあそびに活かしていけるようなワンポイントアドバイスの内容も盛り込んでいる“にこにこ通信”をお配りしており、専門スタッフへのご質問も簡単なものであれば対応しております。

親子参加型のグループなので、お子さんには皆であそぶことの楽しさを安心できる環境の中で感じてもらい、保護者の方々にはお子さんの理解を深めながら、育ちを促す関わりを考えてみていただく一つの機会になればと思っています。参加されるお子さんと保護者の方々が「にこにこ」な時間を過ごすためのお手伝いをしていけるよう、サポートしていきたいと思っています。お子さんも保護者の方々も、にこにこグループに参加して、たくさんあそんでくださいね！

※来年度の詳細は追ってホームページ等でお知らせします。  
(作業療法士 小菅 佑一)

## 地域機関とのつながり

社会福祉法人 夢ふうせん  
工房 夢ふうせん  
施設長 浅野 大輔



工房夢ふうせんは就労継続支援B型と生活介護のサービスを実施している多機能型事業所です。知的障害者及び重度心身障害者の皆さんが6つの作業グループに分かれて生産活動に携わっています。その中のパングループでは、ヒット商品「華麗になるひのめぐみ焼きカレーパン」を生み出し、それをきっかけとして日野市を焼きカレーパンの町として売り出していこうと市内のパン屋と一緒にイベントなどで販売しています。わいわい祭りでも販売する機会をいただきました。日野産のカキとトマトで仕上げたフィリングを入れて、油で揚げずに焼き上げるというとてもヘルシーなカレーパンです。お祭りの時にぜひご賞味いただければと思います！

工房夢ふうせんは、元々日野市内にあった無認可の3団体5施設が一緒になって社会福祉法人格を取得しました。その前身の団体の一つである「かざぐるまの家」の頃から

島田療育センターの皆様には地域療育等支援事業などを通じてご支援いただいていた。平成19年4月の施設スタートからは、日野市による重度心身障害者の皆さんの支援事業として、医療的な相談、理学療法、摂食指導、心理相談を中心に専門スタッフを派遣していただき、夢ふうせんの職員がご指導を受けています。専門的な視点からの確にアドバイスをいただくことで、私たちが支援する上で漠然と抱いている疑問や気が付いていなかったことを整理する機会となっています。私たちのような小さな施設が重度の方たちの地域生活を支える上で、専門的な知見を得られるということは大変貴重なものです。

当施設の課題の一つに、利用者の皆さんの重度化・高齢化ということがあります。障害のサービスでは対応できないということで、介護保険の施設に移行になった方や元気がなくなった方が突然脳梗塞を発症して片麻痺になってしまうなど、顕著にその傾向が表れています。それでも住み慣れた地域で暮らしていくことを支えて

きたい、と私たちは考えています。その支えとなっているのがこの支援事業です。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



# 講師派遣事業

## 講師派遣事業のご案内

- 講演会・学習会・職員研修などのご依頼をお受けしています。
- ご相談内容に沿って専門スタッフが対応します。
- 詳細はお問い合わせ下さい。 支援部 042-374-2101 まで



今日、口腔内の細菌と全身疾患の関係が明らかになってきて、歯ブラシなどの口腔ケアの重要性が注目されてきています。特に誤嚥性肺炎との関係はよく耳にしたいと思います。そんな中、近隣のある施設から「頻繁に熱を出す利用者さんがいるので口腔ケアを学びたい」と依頼がありました。歯科衛生士としてこのような依頼は「口腔ケアの重要性」が広く周知されてきていることを実感でき、大変嬉しいことです。

まずは、そもそも「なぜ歯磨きをしなければならないのか？」を考えていただくために、基本的な「虫歯と歯周病について」さらに食生活習慣と虫歯のリスクとして「虫歯と食事時間の関係」、「虫歯と飲料の関係」のお話をさせていただきました。後半は、「歯ブラシの選び方」、「仕上げ歯磨きのポイント」、「過敏がある方への脱感作の方法」など実践的なお話をさせていただきました。

実習では、講義の内容をより理解するために利用者様に協力していただき、実際に口腔ケアを行いながら、主に口唇排除(指を使って唇や頬をよける方法)の練習をしまし

た。指を正しく使うだけで口腔内が見やすくなり、歯ブラシも入れやすくなることを感じてもらえた様子でした。

今回参加してくださった方々は、皆さん真剣で、私の問いかけにもしっかりお答えいただき、学びたいという熱意が伝わってきました。

歯磨きなどの口腔ケアは、生活に密着したケアのひとつですが、実際にしっかり行うのは意外と難しいものです。今回、講師として講義と実習を通して「大切さは理解しているが実際の歯磨きが上手くできない」という声を多く聞きました。口腔内の環境は人によって違いますので個々に合った口腔ケアが必要です。今後も歯科衛生士という口腔疾患の予防のプロとして、効率よく質の高い口腔ケアを目指して、島田療育センター歯科診療科から様々な活動を発信していけたらと思います。

(歯科衛生士 押野 広美)



## 子どもが物の名前を覚えられないんです・・・

**A** 初期のことばの発達では、一般的に「ワンワン」や「マンマ」、「プープ」など、身近でよく耳にするものや、好きなもの、必要性の高いものの名前など、名詞から覚え始めることが多いと言われています。

しかし時々、訓練に通ってこられるお子さんのお母さまから、「動詞はけっこう覚えているけど名詞が少ないんです。何か問題があるのでしょうか?」という質問をお受けすることがあります。実際にお子さんに関わらせていただくと、確かに名詞より動詞のほうがしっかりとと言える様子が見られるのですが、ことばの発達の初期に名詞より動詞をより多く覚えていることは、心配なことなのでしょうか?

実際には、子どもがことばを獲得していくスタイルには個人差があることがわかっています。初期に覚える語に名詞が多いタイプと、「やって」などといった関わりの際に使われる対人的な語(動詞など)が多いタイプです。

それぞれ、「名詞が多いタイプには第一子が多く、対物志向が強い」、「動詞など関わりの際に使われる語が多いタイ

プには第二子以降が多く対人志向が強い」など、共通した特徴があるとされていますが、名詞より動詞が多いからといって心配なことはありません。また、2つのタイプのうち必ずどちらかに入るというわけではなく、中間に属する子どもも多いと言われています。

どちらのことばが多いか少ないかといったことは、ことばの初期の発達において特に問題があるわけではありません。お子さんが興味を持ったものや好きなことを一緒に楽しんだり、気持ちを共有したりすることがコミュニケーションへの意欲につながり、ことばを覚えていくきっかけとなります。ぜひ、短い時間でもゆったりとした気持ちでお子さんとの関わりを楽しんでいただきたいと思います。

(言語聴覚士 遠藤 亮子)

参考文献: 言語発達障害学 医学書院 2010





問い合わせ：支援部 042-374-2101 詳細はホームページをご覧ください。



ST科講習会

ことばを育てる関わり

～ことばかけや遊び方について～

ことばの発達に大切なことや、普段の生活の中でできるちょっとした心がけ・配慮の仕方をお伝えします。

日時：2月17日（金）

時間：10：00～11：30 ※質疑応答あり

場所：パルテノン多摩 4階 学習室

対象：ことばが育ち始めたお子さんや  
ことばの育ちに心配のあるお子さん  
(ことばの発達段階が0～3歳くらい)の保護者(関係者)  
※保護者優先

定員：20名 (定員になり次第締切)

参加費：無料

(東京都障害児(者)地域療育等支援事業により実施)

お子さんについての気がかりやご心配  
などお気軽にご相談いただけます。



- 「なんとなく気になる」、「子育てに不安がある」
- 「学校や園の先生から専門機関への相談を勧められた」
- 「子どもに必要な支援を知りたい」
- 「専門的な療育や発達の検査を受けたいけど、診断を受けるのに抵抗がある」など..



お気軽にご相談ください

サービスのご利用は、島田療育センターに定期受診、またはセブンカラーに登録している方が対象となり、サービスに応じて費用をご負担いただきます。

地域療育等支援事業のご案内

施設支援一般指導事業

- 発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

訪問療育等支援事業

- 地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

外来療育等支援事業(療育相談)

- 運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

費用は無料です。

第16回 島田療育センター公開シンポジウム

発達障がいをお持ちの方の

就労について考える ～就労に向けておさえておきたいポイント～

平成30年4月の障害者雇用促進法の改定に伴い、障がいのある方の雇用(就労)が更に拡がるのが予想されます。反面、障がいの特性に応じた配置や相談支援体制や指導を受ける機会はまだ十分とは言い難い現状にあります。今回のシンポジウムでは、就労を見据えて、獲得しておきたいスキルは何か、本人・保護者・支援者はどのような準備が必要なのかを考えていく機会にしたいと思います。

平成29年 2月12日 日  
13:00～16:30



参加費 ひとり1,000円 1家族1,500円

定員 100名(定員になり次第締切)

会場 島田療育センター厚生棟

申込 フォームまたはFAX

QRコードからもアクセスできます。



★内容★

- ◎基調講演 松為 信雄 氏(文京学院大学 客員教授)
- ◎話題提供
  - ・ 勿田 文記 氏 (株式会社スタートライン障がい者雇用研究室 室長)
  - ・ 伊藤 勲 氏 (認定NPO法人やまぼうし)
  - ・ やまぼうし就労A型利用者
- ◎ディスカッション

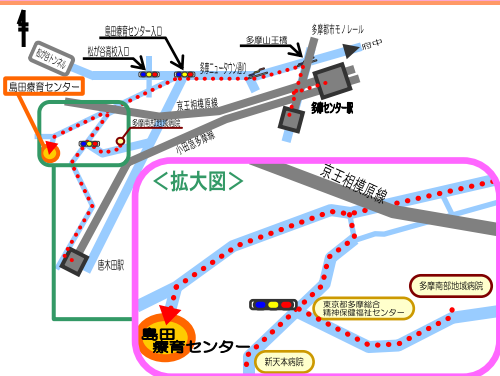
助成・後援：読売光と愛の事業団

後援：多摩市/多摩市教育委員会/日野市/八王子市  
八王子市教育委員会/多摩市手をつなぐ育成会  
東京都知的障害者育成会

編集後記

平成29年1月1日現在、総務省の統計によると、十二支の中で酉年生まれは、人口が一番少なく、一番多いのは丑年生まれだそうです。また、酉の字は「酒」の語源とも言われており、収穫した作物から酒を抽出する、収穫できる状態である、成熟した状態などを表すため、「成る」「実る」「成熟」の意味があるそうです。みなさまにとって、実りある1年になりますように！(林)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会  
島田療育センター 支援部  
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1  
電話：042-374-2071 (代表)  
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp  
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp



(徒歩)  
多摩センター駅下車  
一約20分

(バス)  
多摩センター駅  
バスターミナル12番  
乗り場  
「多摩南部地域病院」行き  
一約7分  
終点「多摩南部地域病院」  
下車→徒歩5分

